



いながき

3月議会活動報告

水道水の安全は 信号機は

～あいつぐ不安の声～



いとう

心からお見舞申し上げます。

未曾有の大惨事。地震、津波に加えて原発事故。犠牲者の数。被災者、避難生活者の辛苦。再建、復旧のけわしさ。放射能汚染の恐怖。拡散。言葉にうまく出来ませんが、心を寄せてお見舞申し上げます。吉川の市民の中にも肉親の安否を気遣う人や現地での救援活動にご苦労されている方々がいます。はげましと感謝のエールをご一緒にお届けしたいと思います。

<水道水は規制値以下>

福島第1原子力発電所事故の影響は水道水に及び、東京は一時乳児への飲用をひかえるよう呼びかけた。埼玉では金町浄水場(葛飾区)にちかい県営新三郷浄水場から給水を受けている川口市の浄水場で23日暫定規制値をこえる放射性ヨウ素が検出された。県では24日新三郷浄水場について検査。25日の公表では74ベクトルで規制値を下回り、飲用に問題はないとの見解を示した。

吉川では東南部エリアの南配水場は新三郷と庄和浄水場から北西部エリアの会野谷配水場は県営庄和浄水場からの給水でその割合は4対6。庄和浄水場については35ベクトル(23日)の検査データ。

<不安の問い合わせ ペットボトルもー>

東京都の暫定規制値オーバーの公表直後から、吉川では問い合わせや不安の声があいつぎその数はメールを含め 150 件前後(3 月 25 日現在)にも。吉川市内の 0 才児は 569 人(3 月 1 日現在)。乳飲み子を持つお母さんたちをはじめ飲用水の安全に対する市民の関心は高い。3 月 27 日、さらに高濃度の汚染との発表。市内唯一の産婦人科クリニックには妊産婦から安全な水の提供を求める声が寄せられ、スーパーではペットボトルの棚は空っぽに。吉川市でもペットボトルの備蓄や配給が迫られる事態も考えられ、市の取り組み、準備も検討課題に。

<信号機ストップ 警察官対応は 2 ヶ所のみ>

計画停電。オール電化の時代です。ご不便、ご不自由。安全か安心できるのか— 影響は甚大です。街灯は消え信号機はストップ。暗闇の交差点は恐怖の「危険地帯」。吉川警察署には警察官の出動を求めて 110 番通報が連日鳴り響いていますが、要員不足で対応には限界とのこと。吉川については保の交差点と吉川交番前交差点の 2 ヶ所のみ手信号で整理。暗いまちの防犯、安全のパトロールや緊急対応のこともあり、これ以上の取り組みは無理と話している。

<冷静に落ち着いてー 危機管理は自己責任>

さいたま市では 17 日信号消灯の交差点で自転車の女性がはねられ重体に。吉川では大地震の時も停電中も事故の報告はなく、それぞれが冷静に落ち着いて行動されている様子が伺えます。停電の時間帯にいながき、いとうで手分けして見回っていますが車の数も通常より少く、交差点ではヘッドライトを頼りに相互で確認、安全に機敏に、譲り合いの精神もみることができました。交差点に民間人を配置しては—との声もあります。これについて吉川警察署では道路交通法との関係や事故に遭遇した場合の責任など難しい問題が多々あると慎重な構えです。危機管理はすべて自己責任。その自覚をもってあわてず冷静に賢明に行動してください。

いながき茂行 栄町 782 番地 1C-1101 TEL 983-1628
E メール imachi.yoshikawa@gmail.com
いとう 正勝 きよみ野 2-8-2 TEL&FAX 983-1117
E メール itoh72@nifty.com
市民改革クラブ ホームページ開設
http://www.geocities.jp/kaikakclub/

【※ ご意見お寄せ下さい。】

代表質問 いながき 茂行

市長選挙後、開催される初めての議会。施政方針を受け、市政全般12項目について提案を交えて質問を行った。

始めに市長4期目に臨む決意と選挙期間中に撒かれた不法(怪)文書への対応を伺った。

結果をどう受け止め、市長4期目の決意は

これまでの実績と今後の取り組みが評価されたものと受け止め、『初心忘るべからず』の気持ちで、『住み良さ日本一』のまちづくりを進めると表明。また、不法ビラについては残念ながら、今後の対応は全て警察に任せてあるとした。

怪文書に書かれていることが事実であれば、市政を揺るがす大事件であり、捏造なら名誉毀損、選挙妨害にあたる。いづれにしても、このようなビラが撒かれる「選挙風土」を変えて行く必要がある。

待機児童解消への取り組みを

保育所の待機児童対策は、低年齢児の枠拡大を図っているが解決には至っていない。新たな保育所設置を目指し、準備を進めている。子ども法案不成立時の対応は、児童手当のみの支給となり、所得調査やシステムの再構築が必要で、6月支給は困難。との見通しを示した。

地域包括ケアシステムの実現を

第5期(H24～26年)介護保険計画策定にあたっては、介護予防・認知症予防の取り組みと「在宅」を支えるための小規模多機能施設が重要。また、一人暮らし高齢者が自立した生活を営むには、医療・介護・予防・生活支援サービスが切れ目なく提供されることが必要で、ネットワーク化を進めるとの認識を示した。

これまで繰返し提言してきた内容に沿った確認がされた。

花いっぱい、循環型都市を目指して

ごみの減量と資源化率向上の取り組みとして、「雑紙」の分別回収・資源化と「生ごみの資源化と花いっぱいのまちづくり」を提案。埼玉県戸田市の事例を紹介し、見解を求めた。

市長は、「雑紙」の削減・資源化が必要と認識しており、広く市民への周知を図っていく。花いっぱい、のまちづくりについては、先進地の事例も参考にして研究したい。戸田市の事例は、ごみ減量と市民参加の連携、市民生活との関わり的重要性を示していると思う。と答弁。

S・Cを活用し、農業・商業の活性化を！

観光資源の開発・育成及び栄町に進出する大型S・Cの活用を提案。逸品朝市の開催など、名産品の販売と観光を組合せた連携を提案。

尚、ナンシン跡地の『土壌汚染』問題については、情報公開(県越谷環境管理事務所)を求め、安全を確認しました。

3月議会は3月1日から3月16日まで開催。全26議案を審議し、全議案を可決。
当初、22日までの日程だったが、11日に発生した東日本大地震に対し、市民生活及び被災地支援の対策に取り組むことを決定。全議員が一般質問を取下げ、会期短縮。

代表質問

市長選挙後のはじめての議会となる為、市長の施政方針を受け、総合治水対策・子育て支援・高齢者福祉・ごみの減量資源化をはじめとする、市政全般12項目について質問を展開。(稲垣)

予算・議案審議 3月4・7日

市条例の一部改正(国保・介護福祉・保育所・学童保育・税条例・市民参画・職員給与・水道事業等)の他、小学校用地(吉川・美南)の取得や保育所施設の無償譲渡について。また、23年度予算及び22年補正を審議。

小学校用地取得や、子ども手当・福祉物検討委員会・教職員住宅・おあしすの指定管理等(稲垣)、新駅周辺の区域変更・中学校用地・新駅建設・水洗化事業等について質問。(伊藤)

委員会審査

文教福祉委員会に(伊藤)、総務水道委員会に(稲垣)が出席。3月9・10日開催、それぞれ詳細に質疑。

議案―討論・採決 3月16日。

23年度予算について(伊藤)が討論。提案・要望・指摘をし、賛成へ。

23年度予算も超大型 新規事業めじろ押し

吉川市の23年度一般会計当初予算は204億8千万円(前年度比20・4%増)。国民健康保険(66億4千万円)、介護保険特別会計(25億2千万円)など6つの特別会計を合わせた予算額は309億5千万円の超大型予算となった。

交付金を積極活用 事業を前倒して実施

22年度一般会計の3月補正は、17億6千8百万円を計上。駅南の小学校用地購入や旭・三輪野江小の体育館の耐震工事が中心。さらに、国の経済対策の補助金を利用した事業を積極的に活用し、23年度事業を前倒して予算化した。

【きめ細かな交付金】では、三輪野江地区の水路整備・補修や川藤・保の市道舗装、旭・関小学校体育館の耐震補強及び大規模改修等、5事業で1億2

千2百万円。【住民生活に光をそそぐ交付金】は、小・中学校図書購入、中央公民館施設修繕、障がい者日常生活支援事業(第2のぞみ号購入)、老人福祉センターの照明設備工事等、8事業で2千4百万円。

教育費・土木費の 伸びが大きい

一般会計当初予算で前年と比較し、教育費(64・1%増)・土木費(32・2%増)・議会費(30・3%増)と民生費(15・4%増)の伸びが特に目立つ。

【教育費】は、(仮称)美南小学校建設工事や小学校体育館の耐震・大規模改修。【土木費】では、吉川美南駅設置工事負担金や新駅関連の道路整備事業等武蔵野操車場跡地及び周辺地区整備への支出。【民生費】は、生活保護世帯の急増に伴う扶助費の拡大が大きい。現在260世帯だが年末には300世帯へ増加する見込み。

【議会費】の増加は、議員年金の破綻による市の負担分。平

成の大合併(市町村)により議員数が大幅に削減された結果、年金制度が維持できなくなり今年度廃止の見込み。

主な新規・拡充事業

学校や新駅関連以外の主な新規・拡充事業は、民間保育所(3施設)看護師配置支援。栄学童保育室3クラス→4クラス。中曽根学童拡張・関学童保育施設整備。子ども医療費の通院分を中学3年まで拡充。子ども手当については、3歳未満児分の支給増額、1億3千9百万円を予算計上。

予防接種事業は、子宮頸がんワクチン・ヒブワクチン・肺炎球菌肺炎地チンの接種委託。

緊急雇用対策事業は、駅前放置自転車対策・喫煙マナーアップパトロール・資源ごみ抜き去り防止パトロール等を継続する他、指定道路図作成や道路反射鏡台帳整備等を実施。



「M9.0」が本当の数字かどうか知らないが、大地震と大津波そして原発事故まで。日本のみならず世界中がじっと見守っている。敗戦から65年。奇跡の復興、世界有数の経済大国。都市には人や物、情報が溢れ、快適で便利、平和は当然。経済一流、有能な官僚、水と安全はタダの一億総中流社会。だから「政治は二流でもいい」と、ついこの間まで言われていた。

格差社会、ワーキングプア、孤独死、高齢者の所在不明、不登校、引きこもり、経済の立て直し、少子高齢化。疲弊した地方都市、農林漁業の再生、膨大な借金を抱える財政再建、何一つ解決していない。国の将来や国民の生活より、自分達の利益・権益を優先する政治家や官僚。目先の利益のために、人を育てることを忘れた経営者。人と繋がらない個人。

そんな中、戦後最大の災害が起こった。豊かさ、幸せとは。私たちはこの先、どの様な国・社会・生き方を目指すのか。

今までと同じように、社会の出来事や、同時代を生きる隣人に無関心でいられるだろうか。見て見ぬふりが出来るのだろうか。『政治は汚いもの』と、関わらずに済むのだろうか。

雨つゆがしのげ、暖かい布団で眠り、家族でごはんが食べられる。そして、自分の役割と居場所があり、人様のお役に立てる。人として、これ以上の喜びがあるのだろうか。政治の果たす役割は大きい。4月10日は、県議会議員選挙。



平常心で乗りこえよう

～吉川のみちかな情報～



災害対策本部

▽吉川市災害対策本部の設置。大震災直後に。2階の市民安全課が本部事務局。休日返上で職員が待機し対応。▽防災無線。震災直後と最初の計画停電については防災無線で状況や注意喚起の放送。公共施設閉鎖等の情報を含め、自治会の協力を求めて全戸配布のチラシも。計画停電、水道水汚染、ボランティア、物品提供など問い合わせ電話があいついでいる。▽市ホームページ。災害関係情報コーナーを新設。地震情報、停電、水道水、交通、公共施設休館、マラソン中止、支援物資提供の呼びかけなど。計画停電実施の14日は9500件のアクセス。27日までの平均アクセス件数は3300件と通常の5~6倍に達しているとのこと。

▽公共施設再開。節電に協力するとの理由で全面的に閉鎖。23日から再開。(三郷は連休前の20日再開。越谷、草加は節電につとめながら閉鎖せず、原則オープン)▽避難住民。福島県南相馬市などからの29人を受け入れ。旭地区センター。布団は近隣住民が提供。地震当日は吉川駅の帰宅困難者など34人に宿(中央公民館)の提供も。

消 防

▽救急援助隊出動。3月26日。吉川松伏消防組合にも救急隊の出動要請。原子力発電所から20~30キロ以内の住民自主避難の搬送支援が業務。救急隊員3人が出発。放射能を防ぐ科学防護服も。埼玉各地からも同日25隊(各3人)が派遣された。当面4日間で交代し継続。▽空間放射線量の測定。消防組合には2台の測定器。周辺の空間で日中1時間ごとに測定。これまでのところ問題なし。吉川に避難の被災住民3人が衣服の測定を要望。問題なし。野菜の出荷停止に伴う安全確認を求める電話も。▽119番通報について。計画停電中は携帯や公衆電話で119番通報をと呼びかけている。現状は救急車の要請は1日10件程度で平常ペース。▽大地震による吉川の被害。236件(3月18日現在)。屋根瓦の破損216件ブロック塀の傾斜10件 外壁落下6件など。人的被害はベッドからの転落1件、負傷なし。▽消防の活動。給油所の被害調査。燃料の優先確保。計画停電に伴う各救急センターの対応能力の調査など、今後の備えも。

医 療

▽多くは平常の診療体制。一市内の医療機関は27。中央総合病院(273床)の他、入院ベッドのあるクリニックは5ヶ所。非常用自家発電装置はあるものの、検査や手術には支障の出ることも。原則通常通り。一部は計画停電中は休診。▽計画停電中の対応については事前に電話等で確認することが賢明。尚、獨協医大付属病院は救急センター 一般診療とも平常通りとのこと。

議会・活動報告

4月24日(日)
午前10時30分～
おあしす セミナールーム

大災害 原発事故
のこと のこと
皆で話しませんか

編集後記

大惨事。加えて原発事故。市議会是一般質問を中止して閉会に。今回は議会報告の一部を変更し「災害関係」の緊急特集を掲載しました。多くの市民にとって水道水汚染と信号機停止は重大な関心事でしょう。自己責任でと突き放されても不安はつのるばかり。怒りを持って行く場もありません。地域に根ざしての現状報告。少しでも気持ちが落ち着くことに役立てばとの思いです。放射能汚染。とどまる気配は見えず、やり過ごすことですむ情勢ではありません。吉川市役所は「地域の危機管理センター」。その役割を自覚して市民の「安心の砦」としての責務をもっと果たすことが求められると考えます。事態の推移、変化を注視し、皆さんの声に耳を傾け、議員として具体的に提起、提案をして参ります。

非常時こそ「平常心」で臨む心構えが大切です。先人達の残した言葉。▽知恵のある者は知恵を。▽金のある者は金を。▽元氣のある者は元氣や思いやりの気持ちを届けよ。そんな言葉が頭に浮かんできました。(いとう)